

20 開館 周年

■ 1918 県立山口図書館 第2倉庫 建設

■ 1930 県教育会館として利用

■ 1983 教育会館移転、取り壊し決定
「赤れんがの会」発足

■ 1990 保存再生決定

■ 1992 工事完成

「クリエイティブ・スペース赤れんが」開館

■ 1994 BELCA賞受賞

1996 山口市オリジナルサイン・パロを製作・設置

■ 2012 開館20周年



取り壊し直前の赤れんが (1983年)



「赤れんが」ペン画 田中保彦作(寄贈)



亀山橋から見た旧教育会館 (1983年)



山口市のオリジナル・チェンパロ

【赤れんがの変遷】

クリエイティブ・スペース赤れんがの元となる赤煉瓦の建物は、大正7年(1918年)に県立山口図書館の2番目の書庫として建設されました。当時の図書館長・佐野友三郎氏は、全国でも先駆的な図書館づくりを行い、図書館の父とも言われた人で、この書庫の設計をてがげ、耐火性と美観に優れた煉瓦造りの建物として完成させました。

大正12年(1930年)、図書館の移転に伴い書庫としての機能を失い、建物は山口県教育会へ移管され、**教育会館の一部**として利用されていました。

しかし、昭和58年(1983年)、教育会館も移転したあとは、利用もなく、建物もその周りも荒れ果てて**取り壊される予定**となっていました。

そこで、魅力ある赤煉瓦の建物の取り壊しを惜しんだ市民によって**赤れんがの会**が発足し、**保存再生運動**が始まりました。

その後、山口市の「彩りあるまちづくり協議会」が保存修復・有効活用について具体的な協議を行い、平成2年(1990年)、国の「ふるさと創生資金」などを活用して保存・再生が決定されました。平成4年(1992年)5月、現在の建物に生まれ変わり、**クリエイティブ・スペース赤れんが**という名称で開館しました。

それから20年、「C・S赤れんが」は、**文化芸術の交流発信の場**として市民に愛され親しまれる建物として現在に至っています。

赤れんがのあゆみ展 展示内容

- ☐ 県立山口図書館書庫～教育会館当時の写真
- ☐ 保存運動当時の資料・新聞記事 など
- ☐ 赤れんが周辺・後河原の写真 今むかし
- ☐ BELCA賞(優良ビル表彰制度)受賞関連の資料 など
- ☐ 赤れんが主催事業のチラシ・ポスター・写真 など

【ごあいさつ】

NPO法人こどもステーション山口が指定管理者としてこの「赤れんが」と共に歩んで5年がたちました。この間、多くの方々にご利用いただき、のべ662,000人のみなさまにご来場いただきました。

この「あゆみ展」では、建設された当時からの変遷を写真や資料などで展示しています。今回、それらの資料を集めていくうちに、この煉瓦造りの建物の価値を確信し、失くしてはならないという思いで日々奮闘され、再生までにこぎつかった市民のみなさんの当時の様子などが推し量られ、「赤れんが」のすばらしさを再認識しています。

開催にあたり、現在の赤れんがの設計をされ、資料提供などのご協力をいただきました今井徹也氏(今井徹也建築設計事務所)をはじめ、関係者の皆様、多くの方々のご協力により開催の運びとなりましたことに深く感謝し、お礼を申し上げます。

C・S赤れんが 館長 山本有希(NPO法人こどもステーション山口 理事長)